



**牧山** 後藤さんとは2005年に参院補選に出馬した時からの仲ですが、今日はこれまでの経歴について聞かせてください。小さい頃の思い出は？

**後藤** 実は私、右目が弱視で、保育園の頃、母が妹二人をおんぶにだっこして週3回電車で1時間かけて眼の治療に通ってました。父がまだ大学院生で家計が厳しい中で、母には感謝して

**牧山**

**後藤** 学生時代は？

高校ではバレー部でしたが、身長が183センチもあるのに補欠でした。高3の息子と中3の娘もバレー部で、私と違いレギュラーで活躍していました。

**牧山** なぜ通商産業省（現経済産業省）の官僚になられたんですか？

**後藤** 高校1年生の時、城山三郎氏の「官僚たちの夏」という通産省を舞台とした小説を読んだのがきっかけです。志望を理系から文系に変え、大学は一浪しましたが初志貫徹で通産省に入りました。



**牧山** どうして官僚から国会議員を目指すことになったんですか？

**後藤** 官僚として「構造改革特区」制度を発案したり、AEDを誰でも使えるよう制度改正しましたが、水俣病訴訟の被告代理人というつらい仕事をした際、患者の皆様から「和解してほしい」と言われ「お気持ちは分かりますが」としか言えませんでした。その後、村山富市首相が和解を政治決断し、政治にしか解決できないことがあると感じたのが最初のきっかけです。特区制度など本来政治家が決めるべき仕事に深く関わるようになり、決断しました。



**牧山** 国会でも地元でも仕事ばかりですが、空いた時間は何をしてるんですか？

**後藤** 料理とか言いたいところですが、ほとんどしてません。小4の娘と近くの公園でボール投げをしたりするぐらいかなあ。最近は土日の朝などに相模川沿いを走ってます。



**牧山** 後藤さんが目指す社会はどんなものですか？

**後藤** 「ほどほどの暮らし」と「命」と「平和」が守られる社会ですね。そのためにも少子化問題の解決と長期的な安全保障が最重要課題だと思っています。

**牧山** 国会内でも「政策といえば後藤祐一」と他党も一目置く存在ですので、新・立憲民主党の仲間として共に頑張っていきましょう。

1969年3月生まれ（51歳）

相模原市立上鶴間中学校、県立厚木高校、東京大学法学部卒業。  
元経済産業省課長補佐。2009年から衆議院4期連続当選。